

ふじみサラダボール子育て情報

「知的発達」

令和5年1月18日号

板橋富士見幼稚園



イメージの世界を楽しもう

幼児期の発達速度は、人間の発達過程で最も急速に進む時期といわれます。そしてどの子どもも順序だてて発達を遂げて行きます。一語文から語彙が増えていき、徐々に言葉で伝え合えるようになっていきます。

それまでの間は、擬態語や擬声語（オノマトペ）がモノを表現する言葉として使われていきます。例えば、1歳半から2歳半になる頃に、モノの名前を覚える時期がやってきます。あるおもちゃから発せられる音を呼び名としたり、ディズニーのドナルドを鳴き声から「グアッカ」と呼ぶなど、ドナルドダックやミッキーと呼べるようになる前には、このような擬態擬声語がよく使われます。こうした身近な音から言葉を覚えていき、さらに発達していくと、語彙が急激に増加してきます。

昨日は幼稚園で、お餅つきを楽しみました。普段の生活ではあまり耳にすることのない言葉を学ぶ大切な行事です。「まき・かまど・せいろ・きね・うす・ふかす・つく・うつ」などの名詞や動詞などを、体験や経験によって覚え、そして使えるようになっていきます。

その際に面白い言葉を耳にしました。4歳児が登園してきてかまどの焚火の前で「あっ、バーベキューの匂いだ」と言ったのです。そしてテラスからかまどを見ていた子は、「お線香の匂いがする」と言い出しました。驚きです。このように4歳児になると、過去の体験を通してイメージした言葉で表現する姿が見られるようになります。

人が言葉を獲得していくためには、こうした過去の体験や経験が必要な学びであることが分かります。そして言葉がある程度獲得され、相手の言っていることの意味が理解できる（文脈が分かる）ようになってから、人から教えてもらい様々な知識を学んでいくことが大切となります。基礎の語彙（言葉）がまだ獲得できていないうちに早期に学習させると、ストレスが大きくなり、失語したり相手の言っている文脈が理解できなくなったりすることもあります。学習として教える時期は、小学校以降が最も理想的と言われています。

よって幼児期では、直接体験することがとても大切で、様々な過去の体験が蘇ることによって、しっかりと言葉を獲得していくのです。

【写真：お餅つき会では、重たい杵やかまどから出る煙の匂いなど、五感でたくさんを感じました】

